



仮設6商店街グルメ一堂に

気仙沼で大会 1500人来場

東日本大震災の被災地にある仮設商店街が地元食材で作る料理を競い合う「復興グルメF1大会」が20日、宮城県気仙沼市の仮設商店街・南町紫市場で開かれた。岩手・宮城両県の6商店街の店主らが、地域復興への思いを込めて発案した「ご当地グルメ」をアピールした。写真。

同市場と国際医療救援団体「AMDA（本部・岡山市）」が「被災地間のつながりを強め、一丸となって東北をアピールしよう」と主催。岩手県の大槌町・大船渡市・陸前高田市、宮城県の南三陸町・石巻市雄勝町・気仙沼市の商店街が、海産物を活かしたケーキやどんぶりなどを出品した。市民や観光客ら約1500人が来場し、投票の結果、グランプリは南町紫市場の「さんまティヤ」に。同市場の店主本清志さん(39)は「商店街のみんなで協力して料理を作った。復興も、みんな力を合わせていきたい」と話した。

【写真・文 小川昌宏】